鹿児島女子短期大学紀要
1993年版第28号 1～22頁

南西太平洋諸島の宇宙開闢神話

―― 哲学的一考察 ――

霧島　　怜

★

目　　次

論文要旨
序　　文
1．南西太平洋文化の沿革
2．宇宙開闢以前の原自然
3．無始永存者
4．宇宙万物の初発と変化の方法
5．宇宙開闢と動植物
結　　文
参照文献
Résumé.

論文要旨

この論文は，日本では既に知られ，又，ここに初めて取り上げられた南西太平洋の宇宙開闢神話の哲学的な一考察である。図表化した34の神話を創造型・共同造成型・生成化育型と混成型に分けたのである。そして，神話的な発想を通じて明示された主要な命題〔レイトモチフ〕と観念の解明を試みている。特に，注目に価する哲学的な命題が下記の通りである。

① 原自然。宇宙開闢以前の状態〔機前〕は，主として，匹儔無きの「天空」・「海洋」・「霧」・「天地海の混合」と「暗黒」の象徴を通じて表示されている。形而上学の観点から言えば，そのようなアルケーは「超神格的な永存者」の異称であろう。

② 神格的永存者。宇宙万物に先立って永存し，一切を創造する神，又は，原自然と共に初め無く存在し，世界秩序を造整する者として登場する。それは，言うまでも無く，神格的な永存者の事を明言する発想である。

③ コスモス化。宇宙の開闢と秩序の成り立ちを「原自然の自発的な現成」，「創造」，「アルケーや永

存者自体の変整」,「唯一者や多神の造整的な活動」及び「先型の混合」という方法で描かれている。それも又，現世界には原因が在り，そして，万有万象が因縁で結ばれていると云う見解を表示するものである。

④　宇宙開闢と動植物。神話の中に登場する様々な動物と植物を無始永存者・創造者・造成協力者や原自然の生成力の「動植物的な顕現」として看す事が出来ると思う。

主要概念：神話の哲学・宇宙開闢と神聖顕現・原自然・無始永存者・コスモス化。

序　　文

今世紀に入って，欧米を初め，アジアとアフリカには神話及び宗教的な伝承に対する学界の関心が久し振りに再興され，次第に高められた結果，各地の神話と伝説を取り扱う論文が急速に増えたのである。現代の神話学，比較宗教学及びそれらの科学的方法論を先例なく前進させたMircea ELIADE氏の影響を受けて，各地神話の研究が促進され，二十世紀が『神話研究の盛代』と呼ばれる事になったのもそのためであろう。最近，エジプト・バビロニア・ギリシア・アステカ・インド・中国・朝鮮半島や日本のような古典高文化の神話ばかりではなく，今まで殆ど知られなかった東南アジア及び南西太平洋諸島の神話を比較宗教学的分析と再考察の対象とする研究が増え続いている。

この論文の中では，更新世後期氷河の進退に伴い，東南アジア大陸から南西太平洋の島々に流された多民族の精神文化を反映する宇宙開闢の神話を哲学的（主として形而上学的）と象徴学的な観点から解説したいと思う。南太平洋諸島の創世神話と日本の宇宙開闢神話を比較し，その象徴学的な考察を進展させた松本信広氏は，Ronald B. DIXONに従い，南太平洋の創世神話を進化型と創造型に分類するが，Felix GUIRANDや大林太良氏がそれに結合型を付加する。[1] 私は，原則として，後者の分類に従い，『世界神話伝説体系』15と22巻，大林太良（編）の『世界の神話』と『日本神話の起源』，松本信広の『日本神話の研究』，『*NEW LAROUSSE ENCYCLOPEDIA OF MYTHOLOGY*』，C. B. SPROULの“*PRIMAL MYTHS*”及びR. F. DEMETRIOの“*MYTHS AND SYMBOLS ～ PHILIPPINES*”の中[2]で記述され，宇宙開闢を描写する南西太平洋神話の三十四伝を下記の三型にまとめ，図表化したのである。

～創造型（Creationist type）及び共同造成型（Collective creation type）。

～生成化育型（Spontaneous emanation type）。

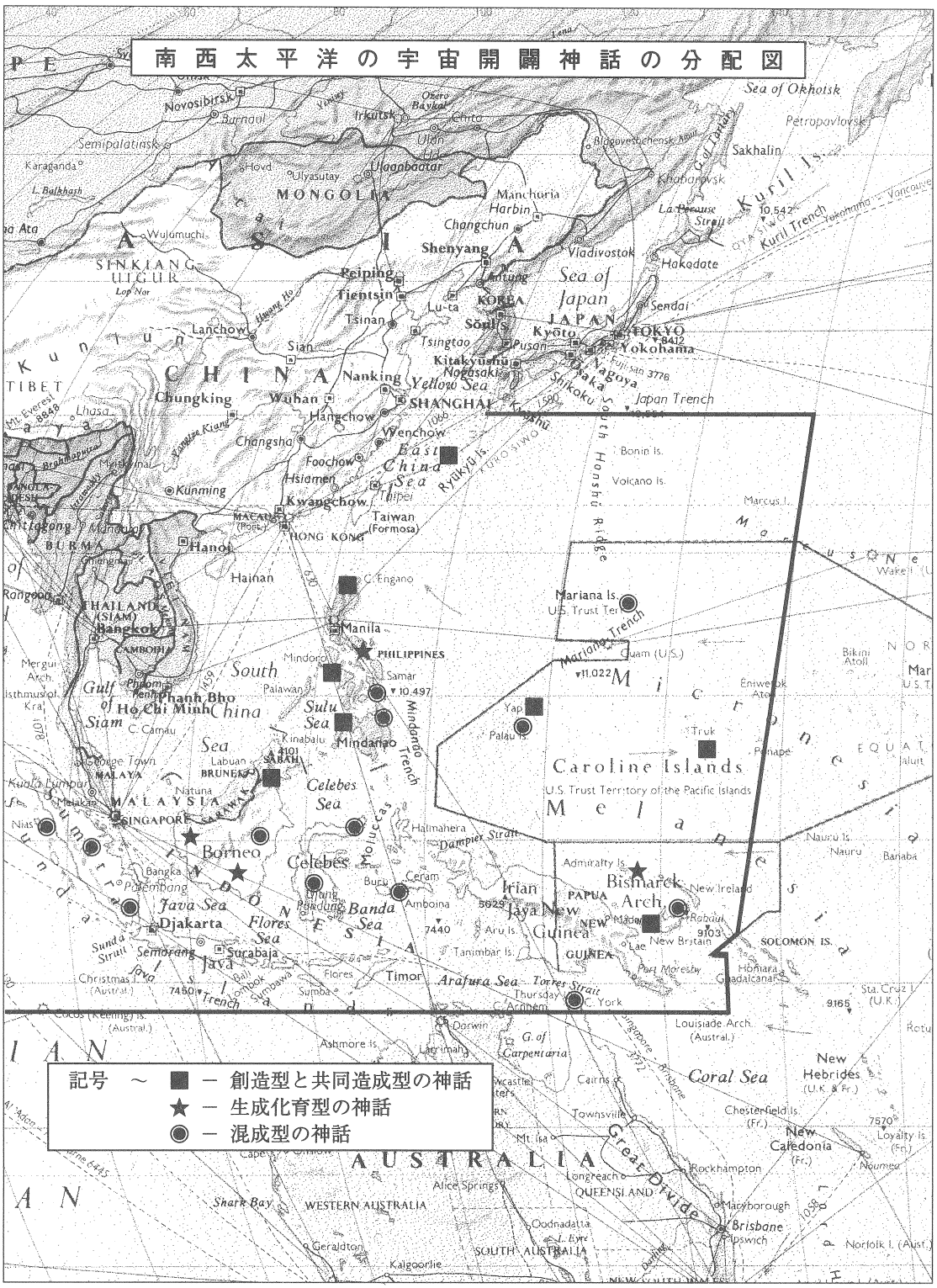
～宇宙万物の多種多様な出現の方法を組み合せた混成型（Blended cosmogony type）。

それらの神話を哲学の見地から分析すると次のような命題を掴み把る事が出来る。

①　現存する宇宙が初発し，開闢する以前には，原自然（アルケー）・万有の原相質・機前と云う本源（‘ARCHE’, ‘ARCHAIC ESSERE’, ‘PRECOSMOGONIC SUBSTANCE’）の存在が仄めかされている。

②　大多数の神話の中に，宇宙万物の原自然の他には，初めのない悠久の者が暗示されている。

③　現世界の開闢，造成や進化の多種多様な方法，特に，創造的方法・生成化育的方法と混合的方法は明示されている。


南西太平洋の宇宙開闢神話の分配図
記号 ～ ■ － 創造型と共同造成型の神話
★ － 生成化育型の神話
◉ － 混成型の神話
Caroline Islands
U.S. Trust Territory of the Pacific Islands
Mariana Is.
U.S. Trust Ter.
Mariana Trench
Guam (U.S.)
Bonin Is.
Volcano Is.
Marcus I.
Wake I.
Yap
Palau Is.
Truk
Ponape
Kwajalein
Bikini Atoll
Eniwetok Atoll
Nauru Is.
Nauru
Banaba
Admiralty Is.
Bismarck Arch.
New Ireland
Rabaul
New Britain
Madang
Lae
Port Moresby
PAPUA
NEW GUINEA
Irian Jaya
New Guinea
SOLOMON IS.
Honiara
Guadalcanal
Sta. Cruz (U.K.)
Louisiade Arch. (Austral.)
Coral Sea
New Hebrides (U.K. & Fr.)
Chesterfield Is. (Fr.)
New Caledonia (Fr.)
Loyalty Is. (Fr.)
Noumea
Norfolk I. (Aust.)
Sea of Okhotsk
Petropavlovsk
Sakhalin
Khabarovsk
Kuril Is.
Kuril Trench
La Perouse Strait
Vladivostok
Hakodate
Sea of Japan
Sendai
JAPAN
TOKYO
Yokohama
Kyoto
Nagoya
Osaka
Shikoku
Japan Trench
Honshu Ridge
Ryukyu Is.
East China Sea
Yellow Sea
SHANGHAI
Nanking
Wuhan
Hangchow
Wenchow
Foochow
Hsiamen
Taipei
Taiwan (Formosa)
HONG KONG
MACAU (Port.)
Kwangchow
Kunming
Chungking
Changsha
Sian
Lanchow
Peiping
Tientsin
Tsinan
Tsingtao
Pusan
Kitakyushu
Nagasaki
Shenyang
Changchun
Harbin
Manchuria
Ulaanbaatar
MONGOLIA
Irkutsk
Novosibirsk
Barnaul
Semipalatinsk
Karaganda
Wulumuchi
SINKIANG UIGUR
Lop Nor
TIBET
Lhasa
Mt. Everest
Hanoi
Hainan
C. Engano
Manila
PHILIPPINES
Mindoro
Samar
Palawan
Mindanao
Sulu Sea
Celebes Sea
Mindanao Trench
Bangkok
THAILAND (SIAM)
CAMBODIA
Phnom Penh
Phanh Bho
Ho Chi Minh
C. Camau
Gulf of Siam
South China Sea
Kinabalu
SABAH
Labuan
BRUNEI
Natuna
SARAWAK
MALAYSIA
MALAYA
Kuala Lumpur
Malacca
Penang
SINGAPORE
Nias
Borneo
Bangka
Palembang
Java Sea
Djakarta
Sunda Strait
Semarang
Surabaya
Java
Celebes
Bandung
Banda Sea
Flores Sea
Moluccas
Halmahera
Dampier Strait
Buru
Ceram
Amboina
Aru Is.
Tanimbar Is.
Timor
Flores
Sumba
Arafura Sea
Torres Strait
Thursday I.
C. York
Darwin
Ashmore Is.
G. of Carpentaria
Cairns
Townsville
Mt. Isa
Great Divide
Rockhampton
Longreach
QUEENSLAND
Maryborough
Brisbane
Ipswich
Alice Springs
Shark Bay
WESTERN AUSTRALIA
Oodnadatta
SOUTH AUSTRALIA
Geraldton
Kalgoorlie
AUSTRALIA
Christmas I. (Austral.)
Cocos (Keeling) Is. (Austral.)
Java Trench
Sunda Trench
Ryukyu Trench
Kurile Trench
Japan Trench
Mariana Trench
Philippine Trench
Sea of Japan
Yellow Sea
East China Sea
South China Sea
Celebes Sea
Banda Sea
Flores Sea
Java Sea
Arafura Sea
Coral Sea
Sulu Sea

④　現宇宙が出現し始まる時に，最初に現れる生き物（太初の神，太初の人，太初の動植物）とその役割が指摘されている。

⑤　世界の形成と進化に於いては，動植物の役割が重視されている。

先ほど概略した神話的命題は，哲学や宗教学の中心的な主題であるばかりではなく，謎めいた宇宙の中に生きる万代万人の実存的な問いに対する南西太平洋島民の人間的な解答でもある。[3] ただし，エジプト・ギリシア・インド・中国や日本のような精神活動によって産み出され，体系化された古典神話と違って，今我々の手元にあるのは，数千年に亙り，多様な変化を蒙った神話的口伝の断片である。それでも，我々の時代まで生き残った当民神話の言語的表現[4]を貫く意味を哲学の見地から解説し，その心髄の究明を試みるのは有意義であると思う。

本題に手をつける前に，南西太平洋島民の文化の沿革を概略する。

1．南西太平洋文化の沿革。

EUGENE DUBOIS 氏が1891年にジャワ島の中央部にある Trinil 町で初めて「ホモ・ジャワニクス」（ジァワの原人）の遺骨をみつけてから百年間経たない内に，「メガントロプス・パレオ・ジャワニクス」（ジャワの太古巨人）・「ピテカントロプス・ロブスツス」（頑丈な直立猿人）及び普通の直立原人の数多い頭蓋，冠骨，大腿骨，顎骨，巨歯，四肢骨と生活用具の遺物は次々と東南アジアの全域で発掘されている。発掘された遺物は，直立猿人を初め，それぞれの時代の原人の体格，姿勢，食生活の風習と文明化を仄めかすばかりではなく，炉辺での集団祭式，連帯意識，社会制度及び精神文化の発展を裏付ける手がかりでもある。[5]

文明開花の面から見て，地球史上の三度目に北半球の大部分を覆った更新世氷河の影響を見落す訳にはいかないと思う。更新世の氷河は，アジアでは，ヒマラヤ山脈と中国中部までに進み，全大陸気候の寒冷化と温暖化を数回も繰り返し，海地形と動植物を初め，東南アジアで生活を営んでいた原始人にも多様な影響を与え，その心身に多種な変化をもたらした。北極圏を中心とした更新世中後期の氷河は，海原の進退と動植物の増減と共に，原始人の膨大な移動，人口の減少，人種の滅亡の重要な原因の一つである。自然の激変に対して，高度な順応性及び優れた免疫を有していた者だけは存続し，発展する事が出来たのである。[6]

更新世後期中に数回に渡って氷河と寒気に覆われた南シベリア・チベットと中国中部を離れざるを得なかったピテカントロプス類の後裔は，野生動物を追い，果実を拾集出来る暖い地帯に向い，東南アジアの大陸と諸島に先住していた同類の原始人を押し迫まっていたので人種移動の多数の大波が発足した事もあろう。最近の氷河の撤退後も，異なる理由で，南西シベリアと中近東アジアのアリアン人種によるハラッパとモヘジョ・ダロ文明の破壊，アリアン系軍族のインド亜大陸への侵掠，中国の戦国時代の混乱と人民移住，漢王朝治世中に行われていた人種移動もインドシナ・フィリピン及び南西太平洋の他島に住んでいた人々にも影響があったのは周知の如くである。多民族の移動及び人種の混合と同時に，言語・宗教・社会制度と経済の混交や融合は自然に漸進し，南西太平洋島民の文明と文化を形成し，発展を促進していたのである。

図表－1．宇宙開闢神話 ── 創造型と共同造成型

神話	宇宙開闢以前の原状	無始永遠の存在者	創造主〔創造神〕	被造物	創造の方法	造物主〔造整者〕	造成の幇助者	造成の方法
BILA-AN 伝		MELUA〔神〕	MELUA〔神〕	世界〔大地〕	② 積み重った垢から世界を拵える			① 掌を擦り合って垢を造る
BAGO-BOS 伝		EUGPA-MULAK-MONOBO〔神霊〕	EUGPA-MULAK-MONOBO〔神霊〕	太陽，月，海，陸，動植物，巨大な鰻と蟹	つくる			鰻で全世界を取り囲まれた
中央 CARO-LINES 伝		LUKE-LONG 太母神	LUKE-LONG 太母神	① 天 ② 島々	つくる			
NEW BRIT-AIN 伝		TO KABA-NANA 神	TO KABA-NANA 神	自然界 衆生万霊 〔精霊と悪霊〕			大蛇の姿を取った悪霊★	万物を堕落させた。
琉球伝	八紘たる天，空と下界	日神 アマミキョ神 シネリキョ神	アマミキョ神 シネリキョ神	① 島々 ② 国民	ア・シは日神の詔を受て共に世界を造る		アマミキョ神 ★	
VISA-YA 伝	原始天空と茫々たる海原	TUBLUCK-LAUI MANAUL CAPTAN CANUAY AMIHAN 〔皆，神王〕	TUBLUCK-LAUI 神	① 天地万象 ② 鳥虫類 ③ 島々	T. は天地万物の存在をせしめる	MANAUL CAPTAN CANUAY AMIHAN 〔神王〕	〔左神王〕 ★	神々の大争覇戦闘に因って世界が形成される
YAP 島伝	近接していた天地と混沌たる海	TUBU-ERICK 遙神， 諸々の神と RIGI 蝶		① 海陸剖判 ② 天地離遠		RIGI 蝶	神々 ★	① R. は飛びながら天地を分ける。 ② 神々は天を押し上げる
北 BOR-NEO 伝	茫々たる海の中に浮かぶ原始的卵	二羽の鳥	二羽の鳥	① 天空 ② 大地	② 鳥達は共に原始的卵から世界を造る		二羽の鳥 ★	① 鳥達は海中から原始卵を引き上げる
IFU-GAO 伝	接近していた原始的天地（？）	天には神々，地には人々		天，空，地		一柱の神		神は天空を現在の高さ迄に引き上げる
MAN-OBO 伝	接近していた原始的天地（？）	人類		天は傷付けられて飛び上がった			一人の女（？）★	女は米をつく時に天を杵で打っていた

記号：①，②，③ ＝ 伝説による出現や行動の順番。
★ ＝ “COLLECTIVE CREATION”〔共同造成型伝〕。
（？） ＝ 古伝の曖昧な表現の為，事物の性格は不明である。

図表－２．宇宙開闢神話 ── 生成化育型の神話

神話	宇宙開闢以前の原状	無始永遠の存在者	太初者〔太初的原質〕	発現した事物と発現の方法
VISAYA 伝－1	茫々たる永遠の暗黒		暗黒	① 暗黒の変化 ⇒ 原始乾坤の出現 ② ココ椰殻の形をしていた乾坤の中で溝鼠が自生する ③ 溝鼠の自成と変化 ⇒ 巨者 Angngalo ④ 巨者 Angngalo の排便排尿の変成 ⇒ Visaya 島嶼，湖と河川
VISAYA 伝－2	茫々たる永遠の暗黒		暗黒	① 暗黒の変化 ⇒ 原始乾坤の出現 ② ココ椰殻の形をしていた乾坤の中で溝鼠が自生する ③ 溝鼠の自成と変化 ⇒ 超巨大な原人 ④ 超巨大な原人が背負った巨大な土塊の転落と変成 ⇒ 無数の島嶼
中央 Borneo	無辺広大な天空と茫々たる海		天の巨大な岩	① 天岩の転落と変成 ⇒ 粘土 ② 粘土から沢山の虫の自生 ③ 太陽の刀の柄の転落と変成 ⇒ 大きな樹の発生と成長 ④ 月の葡萄の蔓の転落と成長 ⑤ 大きな樹と葡萄の蔓の結合と変成〔抱き合い〕による幼き男女の出生
Admiralty 島嶼伝－1	茫々たる海原	（？）一匹の大きな蛇	海底の岩	① 海底岩の浮上と変化 ⇒ 陸地の現れ
Admiralty 島嶼伝－2	茫々たる大海原（？）	（？）男女一組	原始樹林と海面に浮く植物のたね	① 海水の退下 ⇒ 荒廃陸地の現れ ② 陸地の化育と成長 ⇒ 沃地と食物

記号：①，② ＝ 数字は出現の順番を表す
⇒ ＝ 変化方向を示す
（？） ＝ 古伝の曖昧な表現の為，事物の性格は定かではない。

図表－３．宇宙開闢神話 ── 混成型の神話〈1〉

神話	宇宙開闢以前の原状	無始永遠の存在者	出現の方法と発生者〔*最初者〕	事物の変化と方法
MARIANA 諸島	無辺の空間		① プンタン*兄妹は自ら発現する ③ 人間の生成 ⑤ プンタン妹は天地万有，日月星辰と虹を造形する	② 成育し，夫婦となるプンタン ④ プンタン兄の死と屍肢体の多様な変成
YAP 島	無辺大空，原始海原，超巨大な樹	YELAFAZ〔天空神〕	② *女の発〔自〕生 ③ YELAFAZ神は砂を創造する ⑤ 大地の化成	① 世界樹の変成と化育 ④ 撒き散らされた砂の変化と拡張
NAURU 諸島	茫々たる原始海洋と強大な貝	? AREOP-ENAP〔蜘蛛〕 ? 蝸牛 ? 地虫	① 蝸牛と地虫は，貝殻の上半を押し上げ， ② 貝殻の上半が変成し，拡大して天と成る ③ 蜘蛛は小さな蝸牛を月に変成させる ④ 蜘蛛は地虫の汗を海に変成させる ⑤ 蜘蛛は大きな蝸牛を太陽に変成させる ⑥ 貝の下蓋は変成し，拡大して大地となる	

図表－３．宇宙開闢神話 ── 混成型の神話〈２〉

神話	宇宙開闢以前の原状	無始永遠の存在者	出現の方法と発生者〔*最初者〕	事物の変化と方法
MINDANAO島	茫々たる海原と原始小島	LUKBANG, *? MENGEDAN と BODEK 夫妻	① MENGEDAN と BODEK は LINKANAN と LAMPAGAN 兄妹を産む ② L. L. 兄妹夫婦は KALAU と SABITAN と云う鳥を産む ③ K. S. 鳥は土塊を持ち運ぶ ⑥ 人類は L. L. 夫婦の後胤	④ L. L. は土塊から地を拵える ⑤ 土塊は変成し，膨張する
BOHOL 島	天界〔風土・天樹〕海原（？）	*? 天人〔組織〕 *? 海中の生き物〔組織〕	① 酋長の娘は海原に落ちる ② 蟇蛙が海底の粘土を運ぶ ④ BOHOL 島の形成と化育 ⑤ 娘は単性懐胎して子を産む ⑥ 蟇蛙は光を天から持ち込む	③ 海亀甲の周りに撒き散らされた粘土の変化と拡大
SULAWESI 島 Ⓐ	茫漠たる海（？）	? NOA 男	① * NOA 舟の航行によって泡が発生する ③ 陸の形成と化育 ④ 黒い岩の自成 ⑥ 変成した岩から*男女の自成 ⑧ 植物の発育 ⑨ 変成した竹から他人種の発生	② 泡の凝集と膨張 ⑤ 黒い岩の剖判と化育 ⑦ 陸地の漸次化育
SULAWESI 島〔Minahassa 族〕	茫々たる海と巨大な岩		① 巨大な岩から*鶴が自生する ③ LUMIMU-UT 女神の自生 ④ 女神は砂を海原に撒き散らす ⑥ 世界の形成と化育 ⑦ 女神は単性懐胎し，男子を産む ⑧ 親子結婚と神々の誕生	② 流れた汗が変成し，化育する ⑤ 砂の膨張と変化
中央 BORNEO島	天界	?一匹の蜘蛛，一匹の蟹，天人	① 蜘蛛は天空に巣を作る ④ 苔には虫が発生し，成長する ⑥ 土壌の成育 ⑧ 天降した蟹が山谷を形成する ⑨ 降臨した天男と天女の刀柄と紡錘が夫婦となって不具の児を産む ⑩ 天人の後胤の進化の結果として現神祇の登場	② [天からの?] 石が拡張し，化育する ③ 天落した苔の変成と化育 ⑤ 虫の糞の変成 ⑦ 木が天落し，土に根を下ろす
東南 BORNEO島	天空，海	神 *? 一匹の大蛇	① 神は天空から一握の土を投げる ③ 小島の始発と拡大 ⇒ 大地となる	② 蛇頭に落ちた土握の変成
BORNEO島のガジュ・ダヤク族	原海（？）		① 発現し，化育する大陸と湖 ② 天の自成と化育 ③ ★天竜の発現 ⑥ 泡は八つの金卵に変成する Ⓐ 天の端まで運ばれた二個が成育して飛べる精霊となる Ⓑ 海の真中に落ちた二個が成育して海の生き物の祖先となる Ⓒ 高く吹き上げられた二個が膨張し，成長して山となる ⑦ 二つの山は擦り合って最高神を発現せしめられる ⑧ 残りの二個が人祖一組に変化する	④ 発生した泡は川堀を通して湖に流れる ⑤ 湖の泡は風に吹き上げられる
BORNEO島のカヤン族	裸の岩〔天・太陽・月〕（？）	? 蛆と甲虫	① 岩面は雨に潤されて苔が生ずる ② 蛆と甲虫は糞を用いて土を造成する ④ 落下した剣柄は変成し，化育して大樹となる ⑦ 受精の結果として不具の原始男女が発生する〔がその後胤は変化して現人類に至る〕 ⑧ 大樹の葉の変成と化育 ⇒ 鳥虫類の発生 ⑨ 大樹の果実の変成と化育 ⇒ 動物の発生 ⑩ 大樹の幹の変成と化育 ⇒ 鶏と豚の発生	③ 太陽から剣の柄が落下する ⑤ 月から蔓草が落下し，樹に引っ掛かる ⑥ 大樹と蔓草は夫婦となる〔受精〕

図表－3．宇宙開闢神話 ── 混成型の神話〈3〉

神話	宇宙開闢以前の原状	無始永遠の存在者	出現の方法と発生者〔*最初者〕	事物の変化と方法
SUMATRA 島南部，レジャング族	虚無〔空間〕		② 虚無から水が流れ出る ④ 匂いの発現 ⑤ *トゥアン・アルラー・ダワルの発現 ⑥ トゥアンは人間を創造する ⑧ 九神〔又は＋神〕の発現 ⑨ ブットリ・サシ・イノサリ女神は子供を産む ⑩ *九羽の鳥が九部分から成る九個の卵を産む ⑪ 卵が割れ，各部は変成し，化育した結果，下記の存在が発生する： ☆第一部から諸部族とその所有地　☆上部は天となる ☆第三部 ⇒ 太陽，月と星辰が現れる　☆第四部 ⇒ 空気 ☆第五部 ⇒ 海と河川　☆第六と七部 ⇒ 二つ部族の人祖 ☆第八部 ⇒ 石と砂　☆第九部 ⇒ 草木　☆第十部 ⇒ 魚の先祖	① 虚無は〔部分的に〕変成する ③ 小さな地の発現 ⑦ 天と地の変成と拡大
SUMATRA 島のトバ・バタク族	上空の七層，茫々たる海	MULR DYADI〔と云う最高神〕，*?二羽の鳥〔最高神の召使〕，?一匹大蛇	① 最高神は巨樹をはやし，その枝で天〔上空の六層〕を支え，〔第七層に〕雌鶏を創造し，巨樹の枝で卵を産ませる ② 卵の変成と化育の結果として三人の女が発生する ③ 最高神は三人の男を創造し，〔第七層に〕女達と結婚させる ⑥ 土塊は変成し，膨張して大地となる ⑧ MULR DYADI が造成した八つの太陽の光熱によって海水が乾いて沈没した陸地は現れる。 ⑨ 女は大蛇を刀で突刺し，一つの島に縛り付ける ⑩ 天から降臨させられた男と結婚し，現人類の祖先となる	④ 結婚しなかった一人の女が海面に降下する ⑤ 女は一羽の召使が天から運んだ土塊を蛇の頭に振り撒く ⑦ 大地は蛇の頭から転落して海中に沈む
SUMATRA 島のハイリ・バタク族	天原〔天界の動植物〕，海原	BATARA GURU 最高神，B.G. の妻，神々，*?六人の召使，	① 天原で出産しようとする BATARA GURUの妻 ② 鹿の肉を探し求める大鴉は天の穴を通して下界の海原に飛び落ちる ③ BATARA GURUは一握りの砂，木，鑿，山羊と蜂を携えて下界に下す。ここで： Ⓐ 光を創造〔呼ぶ〕する， Ⓑ 木で筏を組み立て，天からの土塊を蒔き散らす	④ 土塊の変成と拡張 ⇒ 大地
NIAS 島〔伝 α〕	原始的霧〔原始混渾〕	無名の存在が霧に潜む	① 濃霧の剖判と*INA-DA SAMIHARA LUWO最初女神の自生〔発現〕 ② 最初女神は世界を創造する ③ 石の剖判とINA-DA SAMADULO HÖSE 太古母神の自生〔発現〕 ④ 太古母神は単性懐胎し，男女の双子を二回産む ⑤ 結婚した太古母神の姉弟には手足のない丸い子供は生まれる ⑥ 姉はこの子を真二つに切り，河源と河口に投げる	⑦ それぞれの半体は変成して人祖となる
NIAS 島〔伝 β〕	濃霧〔原始混渾〕		① 凝縮と変成し始まった濃霧から*無動本源の存在が自ら発現する ② この存在が単為的に産んだ生き物は直ちに死ぬ Ⓐ 心臓から樹木が発成する Ⓑ 樹の枝と葉が変成し，化育して万事万物が成育する Ⓒ 樹の蕾が変成と化育の結果として神々と人間が発成する	③ 変成した屍の肢体から：

図表－3．宇宙開闢神話 ── 混成型の神話〈4〉

神話	宇宙開闢以前の原状	無始永遠の存在者	出現の方法と発生者〔*最初者〕	事物の変化と方法
AMBOINA島	天父たるウプラニテは地母たるウプタナの上に横たわっていた		① 地震で大地が裂け，天は遠ざかる〔自力による分裂と離遠〕 ② 大地の中から人祖が発現する 〔異伝 ⇒ 天父は粘土又は珊瑚石から人間を造る〕 ③ 天父ウプラニテは両手両脚の一部を切断し，宇宙四隅を守る精霊に変成させた	
NEW BRITAIN島	原陸地と塩水の泉	?人祖母と息子達	① 息子達は塩水の泉口を大きくする	② 塩水は流れでて四方に拡がった
BANKS島嶼	遍満たる光照，大海原，原嶋		② ＋二人の兄弟の自生と化育 ③ 長男 QAT は動植物界を創造する ④ QAT は椰子樹から三組の男女を造成し，動氣〔いのち〕を伝達する ⑤ QAT の弟 MIRAWA も三組の男女を造成するが失敗の所為で人間界に死が訪れる	① 原嶋の QATGORO 巨石の自然剖判 ⑥ QAT は夜の暗黒を買い，弟達と人間に眠る事を教える

記号：　⇒ ＝ 変化の方向を示す
①②③ ＝ 伝説による事物の出現や行動の順番
? ＝ 無始永遠の存在者よりも『始め』を有する存在を仄めかす
★ ＝ 宇宙始発の最初者〔最初の生きもの〕
★? ＝ 無始永存者よりも宇宙始発の最初者を仄めかす
(?) ＝ 古伝の曖昧な表現の為，事物の性格は定かではない。

精神文化の発展と交流の面から見ると，ヒンズ教・仏教・イスラム教・キリスト教及び各々の古来信仰は南西太平洋島民の世界観を形成し，彼等の生活の基準理想として今日まで様々なかたちで生きている。[7] 太古の昔から，他文化圏の人々と同じ，南西太平洋諸島に住んでいた人民も，生活状況に適応し，自然界の現象と人生の神秘に直面しながら畏懼の念と魅了的な驚嘆を覚えたであろう。そして，自生活，生死病苦，生き甲斐，社会に興味を示していたばかりではなく，宇宙万物の発生，不思議な千変万化とその由来を追求し，自らの見解を神話的な物語と祭事を通して表現したのである。[8]

これから，分析の対象となる宇宙開闢の神話も，南西太平洋の島々へ歴史以前から渡来と移動を繰り返していた多人種文化の混合と融合の結果である。

2．宇宙開闢以前の原自然。

図表化した神話の三十四の内に，二十二伝が現宇宙の開闢に先立つ状態を次のように描いている。

～『最初に日神ありて八紘（はっこう）を照らせり。
　日神俯して下界を瞻（み）給うに島のごときものあり…』（琉球伝）。

～『太古の昔，原始天空と茫々たる海洋のみがあった時には，宇宙を舞台にした無慙残虐な戦闘が

行われ，現世界が造成され，形成された』（*Visaya* 伝―創造型）。中央と東南 *Borneo* 島，*Yap* 島，*Sumatra* 島のハイリ・バタク及びトバ・バタク族の神話も，世界初発に先立つ原始的な天空海原の存在を指摘する。

～『太初には，天も地もありませんでした。ある物は，果しなく広がった海と ÀREOP ÈNAP（アレオプ エナプ）という年老いた蜘蛛とだけでした。蜘蛛は漫々たる大海原にふわふわと漂っていました。ある日，蜘蛛は非常に大きな貝を見付け…』（*Nauru* 諸島伝）。*Admiralty* 島の第二伝が『大昔には，この世界には，何もなかった。あるものはただ茫々たる海原だけ』，北 *Borneo* 島，*Mindanao* 島及び *Sulawesi* 島の *Minahassa* 族の伝が，『無辺広大な海洋の中に浮ぶ原始的な卵，小島や巨岩』を宇宙万物に先立つ原自然として描いている。又，Banks 諸島の神話が『遍満する光りに照らされていた大海原と太母たる GATGORO（カットゴロ）巨岩を頂上としていた Vanna Lava（ワンナ・ラワ）と云う原島』を万有の根元（アルケー）とする。

～『太初には，濃霧しか存在していなかった』（*Nias* 島伝 α）。同島の異伝によると，『原初には，土地も世界もなく，霧の中には無名の存在が宿っていた』そうです。

～『天がまだ大地に接し，大地がまだ海と分かれていなかった時』（*Yap* 島伝―創造型）。

～『男性の天［ウプテニデ］が女性の大地［ウプタナ］の上に横たわっていた』（*Amboina* 島伝）。

～『宇宙開闢以前には永遠の暗黒だけは存在していた』（*Visaya* 伝－1，伝－2）。

～『天と地が存在する前に，すでに存在していた空間中のどこかにプンタンが永年から住んでいた』（*Mariana* 諸島）。

～『原初には虚無があった。それから水が流れ出し…』（*Sumatra* 島南部のレジヤング族伝）。

～『世界の始めに，一匹の蜘蛛が天から降りて…』（中央 *Borneo* 島伝）。

先ほど配列した神話的表現を観ると，「一体を成す漫々たる天空海」・「一切万物の胚を宿す無辺の海原」・「永遠から近接していた天地空海」・「茫々たる悠久の暗黒」・「遍満たる光りに照らされた原地〔岩・島〕」・「果てしない原始的濃霧」・「原初の虚空」又は，「完全無欠の天界」のようなモノは現世界に先立つ存在（'ESSERE'）として明示されている。それらの表現を形而上学的術語に改めて解釈してみると，南西太平洋島民の祖先は，現宇宙の開闢や創造の前には，原秩序，原相質・原自然・無初の太極のような無始悠久の本源（'PRIMAL ESSERE'，'ETERNAL SUBSTANCE'，'ARCHÈ'）の実在を太古の昔から感知し，認めていたと言わざるを得ない。そして，当諸島の神話を読み，その内容に専心して考えると，宇宙の初発及びそれに先立って存在していた原自然（アルケー）の本性と特徴を描く為に島民代々の理念的及び言語的な努力と心思が窺われる。図表化した神話の大多数を調べると，その作成者及び伝達者は，宇宙開闢以前の時とその異種性を「太古の昔」・「太初」・「原状」・「最初」・「他のものはまだなかった時」と云うような表現を持って描写している。そして，現宇宙初発前の時と発生後の時は，異質的なものよりも，異種的な時間として理解されていたと思う。何故かと言うと，ほとんどの神話の中では，開闢以前の時期に必らず原自然の存在が摘示されているし，開闢以後の時が機前の時から流れ出ると間接や直接に示されているからである。[9] かくて，宇宙開闢・陸地空海の形成・動植物及び人間の出現と云うような出来事が同質的な時間の流れの内での異種的な従流時間の出発点を指すものである。そう云う意味で，

多くの神話の中には，原自然の静寂時代・神々自生の時代・創造の時代・宇宙的覇闘の時代・天地空海分離の時代・天人の時代・暗黒や濃霧の変成の時代・島嶼拡大の時代・動物発生の時代・地人発現の時代や社会創設の時代などのような時期が明示されているばかりではなく，それらの時代の開幕順番，相互関連，依存関係や絡み合いも指摘されている。ところが，宇宙開闢以前に存在する原自然とその何らかの相質を抜きに，世界初発以前の時と云うものが虚念に過ぎない。よって，先ず，南西太平洋神話における原自然の最初のすがたと質をめぐる当民の概念的発想の核心を哲学の立場から解釈を試る事にする。

図表１，２と３で概略された神話の内には，*Bilan*・*Bagobos*・中央 *Carolines* と *New Britain* ～ 創造型の伝だけは宇宙開闢以前について何も言及していない。そして，*Ifugao*・*Manobo*・*Admiralty*−2・*Bohol*・*Sulavesi*Ⓐ・*New Britain* ～混成型・*Borneo* のガジュ・ダヤクとカヤン族の伝が，万物の本元について語っているが，それも，現宇宙の開闢の以前か以後かは，明瞭ではない。残りの22伝が，宇宙開闢以前の原自然について明言し，その特徴をはっきり看取している。

上に言及した四つの神話は，創造主，又は，造物主の絶対的先在（Absolute pre-existence）及び創造神と被造物の因果的な依存を強調するので，形而上学の立場から見ると，創造者が，現世界に先立って永存する神格的な本元（アルケー）の同義異名である。曖昧な表現をもって，世界の初めを解説しようとする神話を省き，残った22伝の「原自然観」の分析に入りたい。

図表１，２と３を調べると，一切万有の原自然（アルケー）とその本来的な性質に関する記述を下記のグループに分け，要約する事が出来る。

～茫漠たる天空と海洋，
～無辺に広がる空間，
～原卵（小島・巨岩・貝）を宿す大洋，
～光に照らされた原海と原島，
～無名の原霧，
～混沌とした天地海，
～茫々たる永遠の暗黒，
～近接する父なる天と母なる大地。

ここにまとめた原自然の像（イメージ）を象徴学の観点から略察すると，次のような命題（leitmotifs）が見出される。

—天空の象徴性（Urano-atmospheric symbolism），
—海洋の象徴性（Aquatic symbolism），
—霧の象徴性（Omikhletic symbolism），
—天地海の象徴性（Three elements' symbolism），
—暗黒の象徴性（Trakhatic symbolism），

先ほど取り挙げた原自然の本来的相質の象徴的な本義をめぐる詳論と細述はこの論文の範囲を越えている。詳細の説明を求める方々には，Mircea ELIADE, Warren KENTON, David MACLAGAN, Barbara C. SPROUL, Maria G. WOSIEN, Jill PURCE, Roger COOK, Johannes C. ANDERSEN と Antony ALPERS

の論究書を勧める。[10]

文明と文化の高低を問わず，「この世が存在し始める前に，何があったか」，又，「宇宙万有の本元とは，如何なるモノか」と云うような問いは，万代万民に通ずる普遍的な難問である。そのような問いに対し，自然の産む転変と豊恵の中で生活を営んでいた南西太平洋諸島の原住民の解答を八つのグループに分けて先にまとめたのである。これからは，数行前に列挙した研究家の学問的見解[11]を背景にし，古代と中世の日本，フィリピンやインドネシアのような島民の心性，思惟とその表現の方法を念頭に置きながら，先ほど列挙した命題の象徴的及び哲学的な意義を概説する。

A　天空の象徴性

～天空は，全てを円屋根のように覆い被り，日月星辰の住処であり，太陽と月を昇らせたり，沈ませたりするので，世界の屋根，一切万物の原住居及び万有生命の悠久たる無尽の本源と桃源境として見做される。

～日月が昇沈したり，星雷雲が天空を通行したりするが，天空自体は永久不動と不変不滅なものとして看される。

～天空の高さ，層と大きさが，それぞれ神威，玄と無限を表示しているものである。

～天空は，光りと暗闇の源，又は洸として見なされる事もある。

～天空は，万有生命の無尽源泉であるから，あらゆる活動の究極的な動因（陽）として見做される。

～天空自体は，不滅遍在であるから，永遠至福の境地であり，万有衆生の故郷，即ち，天国・高天原や涅槃を表徴する。

～天空は，天下界の有為転変，万有流転，変成や生死と無縁のように見えるから，神聖の顕現・神霊の体現や最高神の顔として見なされる。

～天空の広大な円輪が不可見で神秘的な存在の御顔，日月が両眼，光照が微笑，雷電が怒りの剣や打擲，雨が豊饒，流れ星が涙，そして，雲がそう言った存在の衣装として看される。

要するに，一切万有の究極的な本源と見なされた天空は，宇宙開闢と云う謎めいた出来事において，形而上学的な立場から観て，「原動因」（Prima Causa），「原始不動者」（Primum Immobile），「原動力」（Primum Mobile），世界万変の「主導力」を意味する存在である。

B　海洋の象徴性

～水はあらゆる液体の根本不可欠な成分であり，全ての液体を代表するものである。

～絶え間なく揺れ動く海水，自由自在に流れる川や海流，海洋の活気及び水の無定形は，神秘的宇宙の生成変化力，万有無常，逆行や撤回出来ない時・人生と万物生命の流転・経過と果敢さ，そして混沌たる原状への還帰と云う意味を大昔から現代に至るまで持ち続けている。

～海洋の広大さ，唸りと律動的な畝ねり方は，海水の力，海の生命力の神秘・知恵と能力を表示している。

～波の泡，海水の透明さと青色は，清浄，浄化力及び天上海との類似を表示する。海水の生命力は，毎晩，太陽を洗い清め，その光力を増強した後，毎朝，新たに昇らせると云う見解がよく知られている。

～海洋の淵と不透明度は，今も，海中生命の不可解性，その生命力の豊饒を表している。
～氾濫や大洪水は，一方，水の破壊力・衰弱したものの変成や悪の壊滅，他方には，生命の不滅と再生能力を内包するものとして見做されていた。

上記を概略すると，海水は，万類生命の原胞（えな），太初の母，万物の終極的な休みの場，又は，安らかな永眠の墓として看なされていたのである。

Ⓒ　霧と雲の象徴性

～霧と雲は形相の有無の間にあるものを表示する。よって，空気と水の融合体，地上海水の凝結，又は，気体・液体と固体の中間的存在として看されていた。
～天から下る霧や雲は，天上海水の変形，そして，地上万物の生命力を増強するものとして見做されていた。
～天から下って来る神・祖霊・天人や使者の乗り物，又は，それらの仮り姿として見なされていた。
～雲に被われた山頂や霧に囲まれた山は，神仏の座，万霊の住処や神聖の顕現の場として看されていた。
～宇宙万物の変成と流転における神秘的なモノ，謎めいた在様，又は，宇宙開闢直後の世界の最初のスガタを指示するものである。
～心理的な次元においては，真実や真理の隠蔽，偽，心の悩み，罪の状態，孤愁，又は，混乱に落ちている理性の状態，言い換えれば，混沌への還帰を表示するものとして見做されていた。

先の記述を概要すると，霧や雲は，宇宙開闢の直前や直後，神聖たる存在の体現，又は，形態有無の間に立つ神秘的なものを暗示する。

Ⓓ　暗黒と虚無の象徴性

南西太平洋神話の中で出て来る『暗黒』や『暗闇』は，「黒い無」や「絶対の暗闇」ではなく，宇宙初発以前の神秘的な原質，不可見の原境，原初の混元，又は，宇宙の変成発展に逆らう大自然の退化や死絶的な性向を表示するものとして看されていた。そして，宇宙万有の多様な化育進化に伴う「光闇の大争と対立」と云う面から観ると，暗闇は，不可解な破壊力の住処，悪力の具現や悪霊の国と云う濃い倫理的な色彩の意味を今日まで持ち続けている表現である。

尚，『虚無』・『虚空』・『空間』のような表現も，「絶対の無」・「絶対真空」や「不毛不能の空間」を意味するのではなく，空気の極めて乏しい無色の天原や夜空のようなものを指示すると考えれば，当民の神話的な心性と思惟から余り遠ざからないような気がする。

Ⓔ　天地海の混合の象徴性

ここに称せられた「天地海の混合」と云う表現には次のような意味が含まれている。
—天と地は，非常に近くにあり，お互いに横たわり，又は，抱き合う状態にある事。
—現宇宙を代表する天・地・海と云う三大原理の機前的な融合と混和。
—天・地と海が識別出来ない状態にある事。即ち，分離以前の陰陽，古事記的な混元と云う表現によって指示される存在を意味する。

先に略説した五つの意味を持つ原自然（アルケー）の概念は，南西太平洋神話の内にも見事に現われている。[12]

それから，南西太平洋神話の中には，「原始卵」・「原島」・「原岩」や「原貝」のようなものは原始海洋の中に，既に存在していたと述べられている。それは，万有万霊を生かし，宇宙万物の生成発展をせしめる最高神秘たる『生命』の無始の形象を指示する表現である。そうした物の見方は，万民文化に通ずる有名な『宇宙の卵』・「世界の中心にある島」や「原胚」と云う神話哲学的な発想の異類である。[13]そして又，茫々たる太洋に，もともと原始的な卵や貝が浮んでいたと云うような意味を持つ表現が，原自然（アルケー）の本有的二元性（*Dualism of the pre-cosmogonic Nature*）を簡明に指示していると思う。そう云う意味で，南西太平洋諸島には，本来，原自然（アルケー）の一元論の外に，二元論的な見解も共存していたと云う事は確実である。

3．無始永存者。

図表にまとめた神話の内に，九伝が，宇宙開闢に先立って永存する生きもの（者・動物）について，断然たる沈黙を守っている。[14]他の十伝（北 *Borneo*，*Manobo*，*Admiralty* 両伝，*Nauru*，*Sulawesi* Ⓐ，中央 *Borneo*，*Borneo* のカヤン，*Bohol* 及び混成型に属する *New Britain* 伝）は，一応，永存者[15]を指摘するが，その者は宇宙万物に先立って存在する無始者として看取されていたかどうか疑問である。しかし，残りの十五伝は，世界太始に先立つ初めの無い永存者，その性格や活動を明瞭に顕示している。[16]

先の十五伝は指示する無始永存者の性格と宇宙的な役割や活動の要点を下記のグループに分類し，簡単に紹介する。

① 創造主，又は，創造の主導神としての無始永存者。

～ 清潔好きの MELUA 神は掌を擦り合う。積み重った掌垢を土（世界）に変える（*Bilaan* 伝）。

～ 神霊たる EUGPAMULAK MONOBO は世界万有を創造する（*Bagobos* 伝）。

～ LUKELONG 太母神は，或る時に，世界をつくった（中央 *Carolines* 伝）。

～ 神なる TO KABANANA は万有万霊を創造したが，被造物である悪霊が世界，特に人間を堕落させた（*New Britain* 伝）。

～ 変相と変身の能力を有する遙神 TABUERICK の下で，他神と RIGI 蝶の造成的活動によって，近接していた原始的な天・地と海から，現世界の秩序が据えられた（*Yap* 島伝）。

～ 王なる気神 TUBLUCK LAUI と王位を簒奪しようとする大気神 MANAUL の間に，原始的な天空と海を舞台とした残酷極まりない覇権的戦闘が行われた。そして，多神の創造的協力によって世界が形成され，現秩序も制定された（*Visaya* 伝）。

② 宇宙の調整と秩序の制定を司り，万物の一部を自ら創造する遙神的な無始永存者。

～ 八紘たる天空と下界に合い添って存在する日神の詔を受けたアマミキヨ神は世界を造る（琉球伝）。

～ YELAFAZ 天空神は，砂を創造し，女に与え，海面に撒き散らすように命じる（混成型の *Yap* 伝）。

～ 原始的海洋に囲まれた小島に暮らし，完全な沈黙を守っている LUKBANG 遙神の下におかれていた MENGEDAN と彼の妻 BODEK は，創生によって，万有衆生の始祖となる（*Mindanao* 伝）。

～　原始天空の最上層に，二羽の鳥を召使として暮らしていた最高神 MULR DYADI は，天原を耕し，動物と三人の男（と三女）を創造した後，下界を造成し，動物を増し，秩序を調整する。最後に，結ばれた男女三組の内から一組が地上に送られて人祖となる（*Sumatra* 島のトバ・バタク伝）。

～　原始天界に，妻と六人の召使と共に住んでいた最高神 BATARA GURU は，天原の砂・木と動物を下界に下し，大地と原海を照らす光を創造し，世界秩序を調える（*Sumatra* 島のトバ・バタク）。

～　混元たる濃霧の中に潜んでいた無名の生成力が自ら INA-DA SAMIHARA LUWO 原女神として顕現する。女神は世界を創造し，万物の変成化育を司る（*Nias* 島伝）。

③　原始的な世界秩序を改善する無始永存者。

～　人々の願いを聞き容れ，人間に楽な生活をさせる為に，天の一柱神は，天を地から現在の高さまで引き上げる。[この伝は，宇宙開闢以前の状態よりも，機後の秩序の改善について語る]。（*Ifuqao* 伝）。

～　天父ウプラニテは，地母ウプクナから離れた後，先ず，世界の秩序（天空を支える四つの精霊）を制定し，後は珊瑚から人間を造った（*Amboina* 島伝）。

先ほど紹介した神話的伝を形而上学の異面から再度考察すると次のような見解を見出す事が出来る。

～　永存者の太初や発現について何の説明はない。永存者は，原自然（アルケー）と共に，原自然の一部，又は，原自然を抜きに，初めのない生きものとして看取されている。[17]

～　永存者は，性格を有する唯一神（MELUA, EUGPAMULAK, LUKELONG, TO KABANANA）；単一神（YELAFAZ，東南 *Borneo* の神）；最高神（琉球の日神，TUBLUCK，TUBUERICK，LUKBANG，MULR，BATARA，ウプラニテ，*Ifuqao* の一柱神），又，性格不明の絶対神（*Nias* の無名の存在）として指示されている。

～　宇宙開闢の際，多神が登場する場合，最高神ばかりではなく，他の神祇も無始の永存者（INA-DA SAMIHARA LUWO を除く）として見做される事も出来ると思う。

～　召使いとして登場する鳥や人間は，最高神と共に暮らす「由来不明のもの」として描かれているが，それらの存在は，神の創造的意欲の遂行者及び神の生成力の体現として看されていたとみられる。

4．宇宙万物の初発と変化の方法。

大小宇宙の終始及び化育発展の有無，方法と経過が万代哲人の探究と思索の対象である。特に，世界秩序や万有生命の太初と始発をめぐる問いは，神話・宗教・哲学及び現代諸科学に携わる者の無視出来ない命題の一つである。何故かと言うと，結局，宇宙運命の把握なし，人道の究極的意義も理解し兼ねるからである。以下，南西太平洋神話に於ける宇宙万物の初発をめぐる当民の見解を分類し，検討する。

図表１，２と３に要約し，簡単に概説した神話の内容とその命題を改めて他面から解析して観ると，一切万有のコスモス化を表示する二つのグループに分ける事が出来ると思う。一つは，現存する世界秩序の暁（初発）をめぐる「宇宙初発論」。もう一つは，宇宙万有の最初の形態・太初者や太初物から現秩序枠組みの成立に至るまでのコスモス化を解説する諸論のグループである。宇宙開闢の方法論から観て，万物の初発と太初を透視しようとする南西太平洋島民の見解の内には，下記の副グループを見分ける事が出来る。[18]

Ⓐ　原自然（アルケー）は自ら闢（ひら）かれ，剖判され，又は，不可解な内変化を起す事によって，最初の天地海・神祇・者や動植物のような太初が自発的に現成すると云う直観的理解を中心とする宇宙開闢観である。例として：*Visaya* 伝－１と２，中央 *Borneo*。

Ⓑ　アルケーなしに存在する無始永存者は自ら，若しくは，幇助者の協力を得て，万有の太初を虚無（‘***ex nihilo sui ef subjecti***’）から創造し，又は，自体や他神から世界を造整すると云う理解を中心とする宇宙創造観である。例として：*Bagobos* 伝，中央 *Carolines* 伝。

Ⓒ　原自然（無始悠久の本元）と何等かの関係を持つ永存者の活動によって現世界の太初が生じ，又は，永存者がアルケーから太初を造整すると云う考え方を中心とする宇宙発生観である。例として：東南 *Borneo* 伝，*Sumatra* 島のトバ・バタク伝。

上文は，南西太平洋島民の宇宙始発観を述べている神話の形而上学的な見解の枠組みを概略したものである。なお，神話的発想の表面を重視して観るならば，そこに，有神論的，生成進化論的，折衷論的や多説統合論的な宇宙開闢発展観を見極める事が出来る。しかし，神話的発想の多義と曖昧さ，神話を生産していた者の心性と心理，神話の役割，数百年間に及ぶ多文化（インド・中国・イスラム・キリスト教）の影響，そして，今日まで残存された神話的断片を隈なく貫く象徴性と人道的な主題を中心に考えて見れば，先ほど指摘した四つの宇宙開闢観を十分に裏付けている宗教的及び哲学的な趣旨を見出す事が出来ると思う。

なお，ここまで論説して来た原自然（Pre-cosmogonic Nature）・無始永存者（Pre-cosmogonic Divinity）・世界秩序の太初（The very First Being of cosmogony）及び出現した万物の発展方法（*Modes of Cosmicization*）と云う課題の概論的付注として，先に言及した四つの宇宙開闢観の底層に横たわる島民[19]の心理的確信と感知した真実について下記の如く述べておきたい。

～　人間，動植物，自然現象，太陽 … などは宇宙の成分である。宇宙は，万物衆生の『家』として看されていた。そう云う世界像が広く認められていた事は周知の如くである。

～　人と動植物には『親』があるように，一切万有にも『本源（おや）』がいなければならないと云う因果関係の感知と認識は，原始人類の存在的経験に由来するものである。

～　人間，動植物，山や川は小さく，有限で終始のものであるが，宇宙万物の本源が，無尽で全てに先立って永存するモノでなければ万有万象の存在意義も正しく把握出来ないと云う考え方は古代哲人の中に広く普及していた。よって，原始天空と茫々たる海原，無限に広がる海洋や原始的濃霧と云う原自然（アルケー），そして，LUKELONG 大母神や最高神 MULR DYADI のような無始永存者の感知と認識は，上論を表示する証跡である。

～　海洋の威力，太陽星辰の律動，風雨の勢力，季節の回帰や衆生の生死 … などを経験していた島民は，原始的理性の力を持って，天空を永遠不動の父神，太陽を無尽光照と遍満する生命力の神，台風を秩序を破壊する悪神，そして，海洋や大地を万有衆生の太母神として把握していた。そう云う意味では，原自然や無始永存者が『驚異の神秘』，又は，『畏れ多い魅惑の存在』（Numinosum）として看取されていたのである。

～　海神を中心とした信仰。天空神を最高神として宗教や天父地母を中軸とした人道が峻別されるが，各々は，宇宙万有の本源とその化育発展の本動因である『驚異と魅了の神秘』を感知する主体（人間）の異観である。

～　不可思議な存在として看された原自然や無始永存者の活動も，本来，不思議な方法で行われると云う考え方は広く普及している。この論理の結果として，『神祇の発現』。『混元や天地の開闢』・『太初の出現』・『秩序の創始』，又は，登場する万物の増進と変化も複雑で謎めいた出来事の連鎖として描かれている。[20]

～　島民の無名哲人は，遠い昔に起った天地剖判・万物と秩序の創設及び神祇や人祖の登場と云う出来事が自分達の現状から切り放す事は出来ないと信じたので，神話の中に，人道の原型と模型を見出だそうとする努力が窺われる。

5．宇宙開闢と動植物

南西太平洋のみならず，太平洋全域に散らばっている多民の古伝神話の中には，数多い動植物の登場，特に，現世界と万物の生成や創造及び秩序設定の経過に於ける「空・海や地に生きる動物（もの）」の役割とその重要性の強調が非常に目立つと云う事には，誰もが気づくであろう。従って，南西太平洋神話の中に登場する動植物とその役割が暗示する意義の把握と理解がなければ，当民の神話が含蓄する世界観や人間観を十分に解明出来ないと思う。そう云う訳で，南西太平洋島民の宇宙開闢神話を出来るだけ徹底的に解析し，そこに仄めかされている世界観の真相を明らかにする為にも，島民の神話に登場する動植物の象徴的な意味を少しでも堀り探ってみたいと思う。実は，当民の神話に於ける動植物の象徴的意味の多様性を詳述出来るには，神話が形成され，変化していた時の生活様式・動植物界と島民生活との関連を精しく調べる必要がある。ところが，当時場の生活様式及び動植物界に関する科学的に確実な資料が手元には余りないので詳細な論述は出来ない。

しかし，この論文の主題，性格と枠組みに限定し，今まで解説して来た神話の哲学的な意味の多様性を背景に考察を進めると，南西太平洋神話に登場する動植物の役割とその重要性を下記のグループに分類出来る。

(A)　宇宙とその事物を創造し，又は，世界秩序の形成を幇助する起源不明（初めのない？）の動物として，蝶・鳥・大蛇・蜘蛛・蝸牛・地虫・蟇蛙・蟹・蛆と甲虫があげられる。[21]

(B)　現世界の秩序を支え，又，その存続を保持する動物として，鰻・蟹・大蛇・大鴉・山羊・蜂と虫があげられる。[22]

(C)　多種多様な変化を蒙る起源不明，又は，自生した動物として，溝鼠・蝸牛・虫と鶴があげられる。[23]

(D)　原自然の一部であって，自ら変化する植物として，原始的な樹・植物の種子と天の大樹があげられる。[24]

(E)　現世界の生成や進化中に発生し，多様な変容を蒙り，新たな事物の胞（えな）や材料となった植物として，大樹・葡萄の蔓・竹・蔓草と天樹があげられる。[25]

(F)　現世界で創造され，人体の材料となった植物として，椰子樹があげられる。[26]

先の六つのグループを象徴学的及び哲学的な観点から考察すると，創造主・造成幇助主，又は，自生主として描かれている動物は，万物の創造神，世界秩序の制定を手伝う聖霊，又は，原自然の御霊たる不可思議な生命力の『動物的顕現』（Zoomorphic epiphany）[27]，あるいは，神霊の憑依物や御霊代として理解する事が出来ると思う。それから，宇宙開闢以前から存在していた天樹・大樹や原始的種子，又は，世界の創造や形成中に発生し，他物の胞や材料となった大樹・葡萄の蔓・竹と蔓草のような植物は，宇宙万物の生成化育発展をせしめる驚異の生命力の『植物的具現』（Dendromorphic epiphany）として理解する事が出来ると思う。

*

結　　文。

この論文の中で，哲学（主として形而上学）と象徴学の見地から（多少独自的に）考察して来た宇宙開闢神話の命題とその心髄を下記の通りにまとめ，結文に変えさせて貰う。

Ⓐ　原自然（アルケー）の概念。原自然とは，宇宙万物の発現に先立って永存している原始的な天空，無形の虚無，無限に広がる海洋，遍満する暗黒，謎めいた霧，未発の生命を包容していた不思議なもの，又は，それらを組み合わせた融合体（混合体）である。このアルケーの各々は一切万有の本源，無始永遠者，原質料や原動因，即ち，神仏的な存在として看されていた。

Ⓑ　無始永存者の概念。無始永存者とは，原自然の根本要素の一つ，原自然と並存している者，神格の有する超現象的な者，又は，性格不明のようなものである。親なし永存する者は，唯一神，単一神，最高神，又は，動物の姿をとった創造主や造整主として描写されている。

Ⓒ　宇宙発現の方法。宇宙の初発と展開に関する当民の見解を大きく別けて下記のグループにまとめる事が出来る。

～　創造型と共同造成型，

～　生成化育型，

～　上型の様々な混合。

Ⓓ　動植物の役割。宇宙の発現と展開の諸段階に登場する動植物は，原自然の御霊や無始永存者の「動植物的な顕現」として理解する事も可能だと思う。

この論文は南西太平洋諸島に存続する宇宙開闢神話の余す所のない論考ではない。当神話の哲学（及び象徴学）の観点からの一考察に過ぎない。そう云う意味では，不足の処が多いと思うが，多少独自的な解説を試みて，各位の研究家の御指導を仰ぐものである。

参　照　文　献

1　松本信広，『日本神話の研究』，平凡社，[7]1976，p.158。大林太良，『日本神話の起源』，角川選書店，[4]1977，p.58。*NEW LAROUSSE ENCYCLOPEDIA OF MYTHOLOGY*，Hamlyn，[4]1972，pp.457，460。

2　図表の資料文献。

－　『世界神話伝説大系』，松村武雄編，名著普及会，15巻（インドネシア・ベトナム），pp.3－12，22巻（メラネシア・ミクロネシア），pp.3－11，14－15，18－20，24－27。

－　*NEW LAROUSSE ENCYCLOPEDIA OF MYTHOLOGY*，pp.457－460。

－　大林太良編，『世界の神話』，ＮＨＫブックス259巻，1976，pp.50－55，61－79，92－96。

－　大林太良編，『日本神話の起源』，角川選書，[4]1972，pp.58，78。

－　SPROUL,C.B.，"*PRIMAL MYTHS*"，Rider，1980，pp.330－333。

－　DEMETRIO,R.F.，"*MYTHS AND SYMBOLS－PHILIPPINES*"，National Bookstore，[2]1981，pp.36－71。

－　松本信広，『日本神話の研究』，平凡社，[7]1976，p.167。

3　神話の概観について：ELIADE,M.，"*PATTERNS IN COMPARATIVE RELIGION*"，Sheed and Ward，[2]1971，pp.1－38，367－459。ELIADE,M.，『聖と俗』，法政大学出版局，1969，pp.1－12，152－205。MACLAGAN,D.，"*CREATION MYTHS*"，Thames and Hudson，1977，pp.7－22。WOSIEN,M.G.，"*SACRED DANCE*"，Awon Publ.，1974，pp.7－32。CAMPBELL,J.，"*THE MASKS OF GOD－ORIENTAL MYTHOLOGY*"，The Wiking Press，[2]1971，pp.3－146。HOOKE,S.H.，"*MIDDLE EASTERN MYTHOLOGY*"，Penquin Books，[10]1985，pp.11－64。

4　神話とは，Ⓐ原始人や古代人の存在的経験をめぐる直観的理解の言語的（Legomena）及び祭事的（Dromena）な発想である。又は，Ⓑ人間を含む宇宙万有に遍在し，万有事象を遍徹する驚畏的神秘の多種多様な顕現に対し，原始人と古代人の自発的及び直観的な理解と人道的な反応を表わす言行である。

5　*COLLIER'S ENCYCLOPEDIA*，vol.7，pp.250－2。大百科事典，平凡社，5巻，pp.134－5，12巻，p.544。*ENCYCLOPAEDIA BRITANNICA*，vol.2，pp.198－202，vol7，p.20，vol.8，pp.1030－1036，vol.11，pp.423－424。

6　先カンブリア紀に発生した第一回目の氷河が5億7千万年頃前の事である。二畳紀氷河と呼ばれる第二回目の寒冷期はおよそ2億8千万年前に始まるが，更新世の氷河は200万年頃前から5万年頃前までに続いていたと推定される。*COLLIER'S ENCYCLOPEDIA*，vol.8，pp.494－8。*ENCYCLOPAEDIA BRITANNICA*，vol.8，pp.164－5。大百科事典，12巻，pp.681－5。

7　大百科事典，2巻，pp.89－97，1034－8，12巻，pp.891－2，14巻，pp.319－320，820－1。DEMETRIO R.F.，op. cit. pp.294－305，*LE GRANDI RELIGIONI*，Rizzoli ed.，Milano，1964，vol.5，pp.263－6，290。*NEW LAROUSSE ENCYCLOPEDIA OF MYTHOLOGY*，pp.1－8，325－6。大林太良，『日本神話の起源』，pp.16－19。大林太良編，『世界の神話』，pp.38，68。

8　エリアデ・M，『聖と俗』，法政大学出版局，1969，pp.107－204。

9　例として：琉球伝，創造型の *Visaya* 伝，中央 *Borneo* 島のカヤン族伝，*Sulawesi* 島の *Minahassa* 族伝，

Sumatra 島のレジヤング族伝や *Nias* 島伝。

10　ELIADE,M.，“*PATTERNS IN COMPARATIVE RELIGION*”，pp.38－123，188－238，388－436。エリアテ・M.，『聖と俗』，pp.12－46，107－151。KENTON,W.，“*ASTROLOGY*”，AVON，1974，pp.7－32。MACLAGAN,D.，op. cit.，pp.7－22。SPROUL,B.G.，op. cit.，pp.1－30，330－3。WOSIEN, M.G.，op. cit.，pp.7－32。PURCE,J.，“*THE MYSTIC SPIRAL*”，AVON，1974，pp.10－33。COOK, R.，“*THE TREE OF LIFE*”，AVON，1974，pp.7－32。ANDERSEN, J.C.，“*MYTHS AND LEGENDS OF THE POLYNESIANS*”，Charles E. Tuttle C.，^{2}1986，pp.5－7，13－44，452－468。アルパーズ・P.『マオリ神話』サイマル出版会，1982，pp.7－13，343－364。

11　小野清秀，大林太良，上田正昭，三品彰英，川副武胤，西郷信綱，松本信広，吉田敦彦，DEMETRIO Francisco，LEE Khoon Choy の書物。

12　図表１・２・３の『宇宙開闢以前の原状』を参照。

13　数多くの専門書があるが，あらためて，エリアデをすすめる：ELIADE,M.，“*STORIA DELLE CREDENZE E DELLE IDEE RELIGIOSE*”，Sansoni ed.，^{2}1981，vols.1･2･3 。

14　図表１・２・３を参照。

15　「永存者」とは，神，現人神的な者，人，もしくは動物の形で出現する存在の事である。

16　*Bilaan* 伝，*Bagobos* 伝，中央 *Carolines* 伝，創造型の *New Britain* 伝，琉球伝，創造型の *Yap* 伝と *Visaya* 伝，*Ifugao* 伝，*Mindanao* 伝，東南 *Borneo* 伝，*Sumatra* 両伝，*Nias* 伝 α，*Amboina* 伝と混成型の *Yap* 伝。

17　原自然と共に永存するものとして：琉球伝，*Yap* 伝，*Ifugao* 伝，*Mindanao* 伝，東南 *Borneo* 伝，*Sumatra* 島のバタク両族伝と *Amboina* 伝。原自然の内素として永存するもの：*Nias* 伝。原宇宙を創造する永存者：MELUA，EUGPAMULAK，LUKELONG，TO KABANANA。

18　Ⓐ原自然の自力による宇宙開闢，Ⓑ創造神による宇宙の造成，Ⓒ原自然と創造者による宇宙の発現。

19　ここでは，南西太平洋島民神話を中心に考察を進めているが，当民神話を通して現われる『確信と感知』の内容は，彼等独自のものではなく，発想方法と重視点を異にする万人神話の哲学に通ずる見解が非常に多いと注意しておきたい。

20　図表１・２・３の『創造と造成の方法』，『発現した事物と発現の方法』，『出現の方法と最初者』，『事物変化の方法』を参照。

21　図表－１：*Yap* 伝の RIGI，北 *Borneo* 伝の二羽の鳥。
　　図表－２：*Admiralty* 伝－１の大蛇。
　　図表－３：*Nauru* 伝の蜘蛛・蝸牛と地虫，*Bohol* 伝の蟇蛙，中央 *Borneo* 伝の蜘蛛と蟹，*Borneo* のカヤソ族伝の蛆と甲虫，*Sumatra* のトバ・バタク族伝の二羽の鳥，*New Britain* 伝の大蛇，*Mindanao* 伝の KALAU と SABITAN 鳥。

22　図表－１：*Bagobos* 伝の巨大な鰻と蟹，*Visaya* 伝の鳥虫類。
　　図表－３：東南 *Borneo* 伝の大蛇，*Sumatra* のトバ・バタク族伝の大蛇とハイリ・バタク族伝の大鴉・山羊と蜂。それらの動物は，皆，起源不明のものとして描かれている。

23　図表－２：*Visaya* 伝－１の溝鼠。

図表－3：*Nauru* 伝の大蝸虫と小蝸虫，中央 *Borneo* 伝の虫，*Sulawesi* 島の *Minahassa* 族伝の鶴。

24 図表－2：*Admiralty* 伝－2の原始樹木及び植物の種子。

図表－3：*Yap* 伝の超巨大な樹，*Bohol* 伝の大樹。

25 図表－2：中央 *Borneo* 伝の大樹と葡萄の蔓。

図表－3：*Sulawesi* 島伝Ⓐの竹，中央 *Borneo* 伝の天樹，*Borneo* 島のカヤン族伝の大樹と蔓草。

26 図表－3：*Banks* 島伝の椰子樹。

27 ELIADE,M., "*THE TWO AND THE ONE*", Phoenix, 1979, pp.85－124, 152－188。

－ "*IMAGES AND SYMBOLS*", Sheed and Ward, 1961, pp.57－148。

－ "*PATTERNS IN COMPARATIVE RELIGION*", pp.1－366, 410－436。

Résumé

MYTHS OF COSMOGONY IN SOUTH-WEST PACIFIC

～ A Study in Philosophy of Myth ～

〔南西太平洋諸島の宇宙開闢神話 ～ 哲学的一考察〕

by Rei Kirishima

★

Key-words of the treatise.

Philosophy of Myth, Cosmotheogony, Archè, Eternal beings, Cosmicization.

～

In this treatise I have endeavoured to clarify the philosophical and symbological meanings of 34 myths and express them in modern scientific terms. The ontological and symbological analysis of the myths allows us to discern there and define the following leitmotifs, which unveil the vital fragments of the islanders' philosophical and religious perception of the World.

① The leitmotif of "***ARCHÈ***" 〔原自然〕 can be found in almost all myths under consideration. Generally speaking, the reality of "Archè" is expressed in two ways ; as the eternally existing pre-cosmic personal Creator〔s〕, and, as eternally existing pre-cosmogonic, apersonal numinous Essere. In this sub-chapter I have analysed the reality of "Archè" as the eternally existing pre-cosmogonic apersonal Numinosum. Symbological meaning of the Archè had been depicted through the images of "Heavens" 〔Urano-atmospheric symbolism〕, "Primordial Waters" 〔Aquatic symbolism〕, "Primordial Fog and Clouds" 〔Omikhletic symbolism〕, "Primordial amalgamate of Heaven-Earth-Ocean" 〔Three elements' symbolism〕 and "Primeval Darkness" 〔Trakhatic symbolism〕.

② The leitmotif of "***Eternal Pancreator***" 〔無始永存者〕 represents the anthropomorphic or

theomorphic category of the pre-cosmic Archè. This being is pictured as the unique God or Goddess, as the Chief Deity, or as the inexplicable Divinity.

③ The "***Dawn of the Universe***" and ways of its development〔宇宙万物の初発と変化の方法〕. The mythic narratives which have been analysed here speak of four ways of comprehension of the cosmicization. The first understood as arranging of pre-existing reality ; the second as creation by pancreator ; the third as automanifestation and materialization of the Archè ; the fourth as a compound of the above mentioned ones.

④ Animals, plants and cosmicization. Animals which appear in the myths may be regarded as the "***zoomorphic epiphany***" of the archè's vitality〔原自然の生成力の動物的顕現〕, while plants as the "***dendromorphic epiphany***" of the same archè's vitality〔原自然の生成力の植物的顕現〕.